

第3回ラストマイル配送の効率化等に向けた検討会

議事概要

日 時：8月28日（木）13：30～15：30

場 所：経済産業省別館 840 会議室、及びオンライン（Microsoft Teams）

出席委員：青柳委員、首藤委員、月野委員、矢野委員（座長）、梅屋委員、河合委員、佐藤（諒）委員、佐々木委員、橘委員、田路委員、松本委員、見村委員、佐藤（創）委員、海保様（原委員代理出席）、桑原様（畠山委員代理出席）、梶様（竹中委員代理出席）、奥秋様（船木委員代理出席）、石津委員、梶原委員、金子委員、羽二塚委員、富士原委員

議事次第：

1. 開会

2. 議題

（1）ラストマイル配送を巡る関係業界等からのヒアリングについて

（2）これまでの議論等を踏まえた論点整理

（3）今後の検討の進め方について

3. 閉会

議事概要：

- （株）セコマ、セイノーラストワンマイル（株）、岩谷産業（株）、（株）フルタイムシステムから、ラストマイル配送を巡る各社の取組についてヒアリングを行った。
- 上記の説明を踏まえ、委員の間で意見交換を行った。
- これまでの議論等を踏まえた論点の整理について、「多様な受取方法の更なる普及・浸透や宅配サービスの在り方の変革」、「地域の物流サービスの持続可能な提供に向けた環境整備」、「地域の配送等における新たな輸送手段の活用」に関する意見交換を行った。

議事概要：

議事（1）「ラストマイル配送を巡る関係業界等からのヒアリングについて」の質疑

【（株）セコマからの取組紹介に関する質疑】

- セコマ殿取組では、一般的なコンビニ配送の方法とは異なっていると考えます。一般的なコンビニ配送の場合、毎日、固定化されたルートで店舗配送を行っている。セコマ殿は通常の店舗配送に、メーカーとしての役割、あるいは卸としての役割などをうまく組み合わせて配送しているが、その場合、日々の店舗配送のルートは固定化されているのか。それとも日々ルートを変えているのか伺いたい。
- 概ねルートを固定化している。季節によって集荷するものが変化したり、冬場など道路状況によってルート変更を行うこともあるが、基本的には同じルートにいろいろなものを組み合わせて配送している。

○ セコマ殿は、原材料の調達、製造、小売などの機能を持っているため、効率的な運用が出来ていると感じた。セコマ殿は、他社商品なども一緒に配送するのか。それともすべて自社グループ内の商品のみで配送しているのか伺いたい。

→ メーカーから商品を調達する際は、自社物流センターまで配送してもらうのか、メーカー倉庫に引取りに行くのかによって仕入れコストが変わる。商品を引き取れるようなケースにおいては、自分たちでトラックを用意して引き取りを行い、自社物流センターを経由して各店舗に配送する。

また、関東にも店舗を保有しているため、北海道で製造した商品を関東へ供給する際は、苫小牧港（北海道）から大洗港（茨城県）までのフェリーを活用している。帰りは荷物がなくなるため、我々の荷物の他に、他のメーカー等から配送の委託を受けて、北海道向けに商品を運ぶこともある。

○ 配送エリアによって、店舗への納品回数を変えているようだが、納品回数を変える条件は、距離によって決めているのか、在庫回転率によって決めているのか伺いたい。もし、距離によって決めているのであれば、納品車両は一日あたり平均何回転くらいしているのか伺いたい。

→ 遠隔地は一回転程度、札幌市内などは三回転程度である。通常は午前、午後での納品で二回転程度が一般的である。

○ 札幌市内は販売量が多いため、札幌近郊に配送拠点を置いているのか。また、各エリアに配送拠点があるようだが、各エリアの配送拠点の在庫が切れたときは、札幌センターから直接各エリアの店舗へ配送するのか、各エリアの配送拠点へ在庫転送するのか伺いたい。

→ 札幌は人口が多く、店舗数も多いため、配送拠点の規模も大きい。また、札幌の配送拠点は、札幌近辺の加盟店向けへ配送機能と、集約した商品を地方の配送拠点に転送する機能が備わっている。

○ 各エリアに配送拠点があるようだが、各エリアの配送拠点の在庫が切れたときは、札幌センターから直接各エリアの店舗へ配送するのか、各エリアの配送拠点へ在庫転送するのか伺いたい。

→ 各エリアの配送拠点は在庫型の拠点と通過型の拠点があるため、拠点の機能によって対応は異なる。出荷頻度の高い飲料などは各エリアの在庫型配送拠点も在庫をしているが、在庫が少なくなると札幌センターから在庫の転送を行う。また、各エリアの配送拠点の近隣にメーカー倉庫があれば、そこから供給してもらうこともあるが、基本は札幌センターから在庫の転送を行っている。

【(株)フルタイムシステムの取組紹介に関する質疑】

○ 前回の検討会で、マンションでの宅配ロッカーの不足が課題として挙がっていた。今回紹介のあった便利な宅配ロッカーや3温度帯対応の宅配ロッカーについて、新規の設置、または既

存設備からの入れ替えにかかる費用はどのくらいなのか伺いたい。

また、第一回の検討会では、宅配ロッカーをマンションに新たに設置する場合、マンションの管理組合の合意が必要になるとの課題の指摘があった。特に全国に数多くある中小規模のマンションに宅配ロッカーを普及していくため、今後このような課題に対してどのように考えているのか伺いたい。

→ 通常 100 世帯程度の集合住宅の場合は、25～30 ボックス程度の宅配ロッカーを設置してもらう場合が多いが、導入費用はイニシャルで 150～200 万円程度となっている。数年前は、成約率は低かったが、近年は管理組合のご協力もあり、宅配ロッカーを導入いただける確率が上がっている。

これまでは、宅配ロッカーの設置に費用をかけるくらいなら、再配達を依頼する方が良いと考える居住者も多かったように感じるが、最近は宅配ロッカーを設置して、受取のストレスをなくしつつ、配達者もサポートできるマンションにしていこうという動きが増えているように感じている。

議事（２）「これまでの議論等を踏まえた論点整理」についての意見交換

～議事（２）の意見交換に関する議事概要は非公表～

以上